

令和2年度事業報告について

令和2年度、協会の事業運営は、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響により厳しい経営状況であった。がん検診事業では、各市町による感染拡大防止対策により、検診実施の有無や開始時期等について当初計画から変更があり、ふくい健康の森管理運営事業では、前年度2月末日（県民健康センターは当年度4月4日）より、県からの営業自粛要請を受け、施設休館状況のまま新年度を迎えることとなった。

がん検診事業において、がん検診全体(妊婦検診含)では、受診者総数が昨年度比較△40,991人(△23.4%)であり、協会の基幹事業として厳しい結果であったが、県や市町、県医師会、関係機関と協力し、感染拡大防止に努め、県民に安心安全な検診を提供することができた。

集団検診では、当年度検診未実施とした市町があり、また、実施した市町についても、検診実施計画数の圧縮や検診会場での受診者人数制限等を設けるなど感染拡大対策がなされ、その結果、受診者総数は昨年度比較△41,211人(△39.8%)となり大幅に減少した。

個別検診では、集団から個別への移行傾向に併せて、新型コロナの影響により個別医療機関での受診を希望する住民が多かったことが考えられ、受診者総数は昨年度比較88人(0.1%)増となり、個別検診の実施状況は昨年並みであった。

乳がん検診デジタル化整備においては、JKA や福井県からの補助のもと整備が完了し、がん検診の精度管理の維持向上のため運用を開始した。

ふくい健康の森指定管理事業において、県民健康センターでは、各共済組合や健保組合、各事業所の意見要望を取り入れ受診予約体制の整備を行うなどのサービス向上に努めた結果、健診受診者総数は、昨年度比較325人(6.5%)増加した。

けんこうスポーツセンターおよび健康スポーツ公園では、感染防止対策として施設営業方法等を見直し、安全安心なサービスの提供に心がけ、利用者数の回復に努めたが、昨年度比較△116,517人(△43.4%)であった。

生きがい交流センター(健康の森温泉)では、利用者数の減少傾向に歯止めを掛けるため、積極的な営業活動を行うなど利用者増に努めていたが、設備更新や大雪被害による源泉設備の故障により温泉利用が長期休止となり、昨年度比較△66,624人(△55.3%)と大幅に減少した。

当年度に造成した「心をひとつに ふくい応援」基金運用事業においては、福井県民をはじめ多くの方々から寄附が集まり、基金の配分を通じてコロナ禍の最前線で働く医療従事者の勤務環境改善に努めた。

1. 生活習慣病予防・健康管理に関する事業

がん対策基本法に基づき、県民全体のがん予防を推進するため、検診車の派遣等によるがん検診、県民健康センターでのがん検診を含めた健康診査事業を行い、一元的管理による効果的ながん対策に取り組むとともに、必要な情報の提供等を行った。また、新型コロナウイルス感染症患者の治療等に当たる医療従事者等の環境改善等および感染症対策の充実のため、福井県と連携して、県民等からの寄付からなる基金を造成し、それを原資に医療従事者等に助成を行った。

(1) がん検診事業

① 精度管理の維持・向上

がん検診の信頼性・実効性を担保する精度管理の重要性を踏まえ、その一層の向上に努めた。

- ・胃がんワークステーションの更新（撮影画像の保管、運用時の精度管理向上）
- ・乳がん検診デジタル化に伴うデジタル検診車，ワークステーション等の整備（デジタル化による画質向上および読影における運用方法の拡充による精度向上）
- ・学術研修会への参加（回数9回 ※新型コロナにより責務研修会中止による参加）

② 受診者確保事業

小規模事業所を対象とする検診受診の啓発や、県・市町等と連携した受診勧奨により受診者確保に努めた。

- ・市町と協力し少人数検診会場において出前検診（広域検診）を実施
- ・小規模事業所での出前検診を実施

受診者数：2,261人（令和元年度 1,695人）

○がん検診実施状況

区分	令和2年度（人）			令和元年度（人）			比較増減（人）			比較増減（%）			
	集団	個別	妊婦	集団	個別	妊婦	集団	個別	妊婦	集団	個別	妊婦	
胃がん	7,152	8,525	—	9,075	8,047	—	△1,923	478	—	△21.2%	5.9%	—	
子宮がん	5,896	14,205	5,184	10,734	14,878	5,316	△4,838	△673	△132	△45.1%	△4.5%	△2.5%	
乳がん	7,329	8,823	—	12,069	9,353	—	△4,740	△530	—	△39.3%	△5.7%	—	
肺がん	X線	17,358	19,294	—	34,014	18,914	—	△16,656	380	—	△49.0%	2.0%	—
	喀痰	276	121	—	424	163	—	△148	△42	—	△34.9%	△25.8%	—
大腸がん	24,414	16,793	—	37,320	16,318	—	△12,906	475	—	△34.6%	2.9%	—	
計	62,425	67,761	5,184	103,636	67,673	5,316	△41,211	88	132	△39.8%	0.1%	△2.5%	
合計	135,370			176,625			△40,991			△23.4%			

(2) がん検診受診勧奨事業

県内市町がん検診等の未受診者を対象に、受診勧奨センター等を活用して受診勧奨を行い、受診率向上を図った。また、チラシによる精密検査の受診勧奨（肺・大腸）を行った。

勧奨件数 : 2, 124人（令和元年度 14, 177人）
実施市町数 : 10市町（令和元年度 13市町）

(3) 健康情報発信事業

がんをはじめとする健康に関する正しい情報の発信・普及啓発に努めた。また福井県の健康情報発信の拠点を目指し、発信する情報の拡大、内容充実を行い、協会の認知度向上を図った。

- ・チラシ等へのがんネットQRコードの掲載
- ・協会医師のコラムページの更新（がんネットふくい内掲載）

更新回数 : 9回（令和元年度 1回）

- ・福井商工会議所会報誌「健康ひとくちメモ」への掲載

掲載回数 : 6回

(4) 健康診査事業(県民健康センター)

精度管理、施設安全管理に努め健康診査を実施。受診者意見や要望を積極的に把握し、健診内容の充実、利用者の利便性向上に努め、利用者増を図った。

① 受診者確保事業

従来の大口顧客（地方職員共済組合、公立学校共済組合等）との関係強化や新規事業所等への渉外活動の強化を図り、リピーターの確保や新規受診者獲得に努めた。

- ・保険者等との連絡を密にし、被保険者の要望等を反映した受診環境の整備
- ・退職者を対象とした受診勧奨の実施

② 利用者の利便性向上

受診者の要望に応じ、健診体制の整備に努め利便性の向上を図った。

- ・健診予約状況のホームページ掲載

○健康診査実施状況

コース別	令和2年度(人)	令和元年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
総合	1,352	1,138	214	18.8%
一般健診	3,551	3,426	125	3.6%
特定健診	27	25	2	8.0%
特定保健指導	118	154	△36	△23.4%
その他の健診	287	267	20	7.5%
計	5,335	5,010	325	6.5%

(5) 無料健康相談・無料健康講座事業(県民健康センター)

一般県民を対象に県民健康センターや生きがい交流センターにおいて、健康・ストレス・病気等に関する講座や相談を実施した。

利用人数 : 104人(令和元年度 351人)

(6) 啓発・キャンペーン事業

9月の「がん征圧月間」、10月の「ピンクリボン月間」をがん検診・対策集中PR月間とし、県、市町、協会、民間が講演、イベントなどを集中的、連続的に展開するとともに、県を通じこれらの取組みを一元的に広報、PRした。

① がん征圧月間(9/1~30)の取組み

がん征圧月間ポスター等の配布、マスコミを利用した広告、広報活動等を実施した。

② 関係機関、団体等との連携

県やピンクリボンの会(ピンクリボンキャンペーン)と協力し啓発活動を行った。

・乳がん検診普及啓発ライトアップ(アオッサ 10/1, 2)

(協力:福井テレビジョン放送株式会社、福井高等学校進学科進学コースデザイン分野生徒『ピンクリボンデザイン画展』)等

③ 日本対がん協会グループ福井県支部としての活動

リレー・フォー・ライフ・ジャパン ふくいの従来のイベント開催を見合わせ、県内のがん診療連携拠点病院を中心とした展示会や募金活動等による啓発活動を行った。

寄付額 : 138,025円(令和元年度 486,201円)

④ 結核予防会福井県支部としての活動

・福井県知事表敬訪問(9/1 複十字シール運動:福井県健康を守る女性の会)

・結核予防週間(9/24~30)の取組み

啓発ブースの設置(嶺北:県庁ロビー、嶺南:若狭図書館)、結核予防ポスター等の配布、マスコミを利用した広告、広報活動等を実施

寄付額 : 2,304,700円(令和元年度 2,437,400円)

⑤ 講演会・研修会の開催

市町や企業等、各種団体が主催する講演会に講師派遣をした。

医師講演 : 7回(令和元年度 12回)

⑥ ふくいSDGsパートナーへの登録及び活動

県民の健康づくりを支援するため、SDGsパートナーへ登録し活動に取り組んだ。

活動 : 上記②、③事業および“子どもたちへのスポーツ教室の提供”

(7) 「心をひとつに ふくい応援」基金運用事業

新型コロナ感染症対策の最前線で働く医療従事者等の勤務環境の改善等のため、福井県と連携して、県民等からの寄付からなる基金を造成し、医療従事者等に対して助成を行った。助成先は、学識経験者等からなる基金の配分委員会で決定した。

基金総額 : 71,344,383円
配分実績 : 30,300,000円 (13機関)

2. 健康づくり・体力づくり・生きがいつくり推進事業

「ふくい健康の森」の施設を活かし、県民の健康づくり・体力づくり・生きがいつくりを一体的に推進し、県民の健康に寄与するため、コロナ禍でも気軽に行える運動、健康づくりや感染予防のための情報をホームページに掲載した。

(1) 健康増進各種教室・運動障害回復訓練事業 (県民健康センター)

生涯を通じて積極的な健康づくりのために、運動・栄養・休養のバランスのとれた生活習慣の確立を目指して健康づくりに関する情報を提供した。また、作業療法士による地域リハビリテーション事業 (地域支援事業) の運動障害回復訓練事業を実施した。

○ホームページを活用し健康づくりをサポート

・栄養や休養に関する教室開催を見合わせ、コロナ禍でも行える健康づくりや感染予防のための情報を掲載した。

健康増進各種教室利用人数 : 実績なし (令和元年度 189人)
運動障害回復訓練利用人数 : 2,490人 (令和元年度 3,419人)

(2) 運動プログラム指導事業・体力づくり教室事業 (けんこうスポーツセンター)

個人の健康づくりへの支援として、トレーニングジムおよび温水プールでの個別運動プログラムの発行や3か月減量講座等の実施など、きめ細かなアドバイスをを行った。また、フレイル予防教室などの対象者を絞った教室の提供、利用者ニーズの把握による内容更新等に努めた。

運動プログラム指導 利用人数 : 4,291人 (令和元年度 9,973人)
体力づくり教室 ほか 利用人数 : 33,346人 (令和元年度 61,022人)

(3) 生きがづくり推進事業(生きがい交流センター)

世代間の交流や趣味を広げるために各種教室を開催した。

文化講座 ほか 利用人数 : 224人 (令和元年度 8,530人)

(4) 施設の提供事業

県民の健康づくりの総合施設として、各施設において健康づくり・体力づくり・生きがづくりの機会と環境の提供のために安全安心な施設の管理運営に努めた。

○各施設運営の改善

利用者の意見を反映し快適な施設環境の提供に努め、スポーツセンター・生きがい交流センターの入館料について、令和元年度から新たに導入した学生割引により若年層の利用増を図った。

(県民健康センター)

健康増進を目的とした会議室や研修室等の貸出を行った。

○施設利用実績状況

	令和2年度(人)	令和元年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
施設利用	265	1,285	△1,020	△79.4

(けんこうスポーツセンター)

温水プールやトレーニングジム、テニスコート等の屋内外の各種運動施設を効果的に活用し、楽しみながら運動を実践できる場を提供した。特に、スケートパークについては、県に要請し安全対策を徹底した。当年度、夏季繁忙期の温水プール営業については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として利用時間の3部制を導入し、利用者の安全を確保し、営業の継続に努めた。

○施設利用実績状況

区分	令和2年度(人)	令和元年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
スポーツセンター・温水プール	103,158	182,826	△79,668	△43.6
スポーツ公園	49,057	85,906	△36,849	△42.9
計	152,215	268,732	△116,517	△43.4

(生きがい交流センター「健康の森温泉」)

公園来場者の誘客や、近隣企業への営業等により利用者確保に努めた。また、源泉設備修繕による温泉利用休止中においては、利用者により良いサービスを提供するため施設修繕等に努めた。

○施設利用実績状況

区 分	令和2年度(人)	令和元年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
健康の森温泉	51,421	114,988	△63,567	△55.3
交流ホール等	2,526	5,583	△3,057	△54.8
計	53,947	120,571	△66,624	△55.3

3. 健康管理・健康づくりに関する広報、調査研究事業

がん検診を含めた生活習慣病予防・健康管理に関する事業と健康づくり・体力づくり・生きがいづくり推進事業に関する事業等、協会の事業全体の広報や調査研究を行った。

(1) 研究・研修事業

① 研究会等への参加および開催

がん検診に関する読影精度の向上など健康管理・健康づくりの技術の進歩を図るため、各部位別研究会等について、全て未実施となったため、Web開催による学会（日本細胞診学会、胃がん検診専門技師研修会）に参加した。

参加回数：3回（令和元年度 21回）

② 研究事業への支援・協力

がん検診を県下一元的に実施していることを生かし、各研究への協力を行った。

・「子宮頸がん検診の未受診者に対する自己採取 HPV 検査の受診率向上効果の検証」（福井大学産科婦人科）にかかる検査の実施

・特定臨床研究「福井県の対策型検診に参加した 27 歳～45 歳で細胞診正常であった女性に HPV4 価ワクチン（ガーダシル®）を接種することによる HPV16 型と HPV18 型の持続感染予防効果を評価する 2 群間比較試験」（福井大学産科婦人科）への協力

・「乳がん検診の適切な情報提供に関わる研究」（済生会病院）への協力

・「血中マイクロ RNA がんマーカーの検診コホートにおける性能検証研究」（日本対がん協会）への協力

(2) 広報活動

健康管理協会、ふくい健康の森の広報の強化

協会の広報、営業については、協会内にチームを設け、がん検診事業、健康の森管理運営事業をこれまで以上に連携させ、全職員が一体となって活動した。

健康の森通信については、掲載内容や配布先の見直しを行うとともに、LINE 配信などの SNS の活用により若者をはじめとしたより広い顧客へ効率的な情報発信に努めた。また、直接訪問による PR 活動を実施した。

- ・「健康の森通信」の内容刷新、LINE や HP などによる定期的な情報配信
- ・施設休館期間中は各施設の特性を活かした動画を配信

4. 事業報告附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項：なし